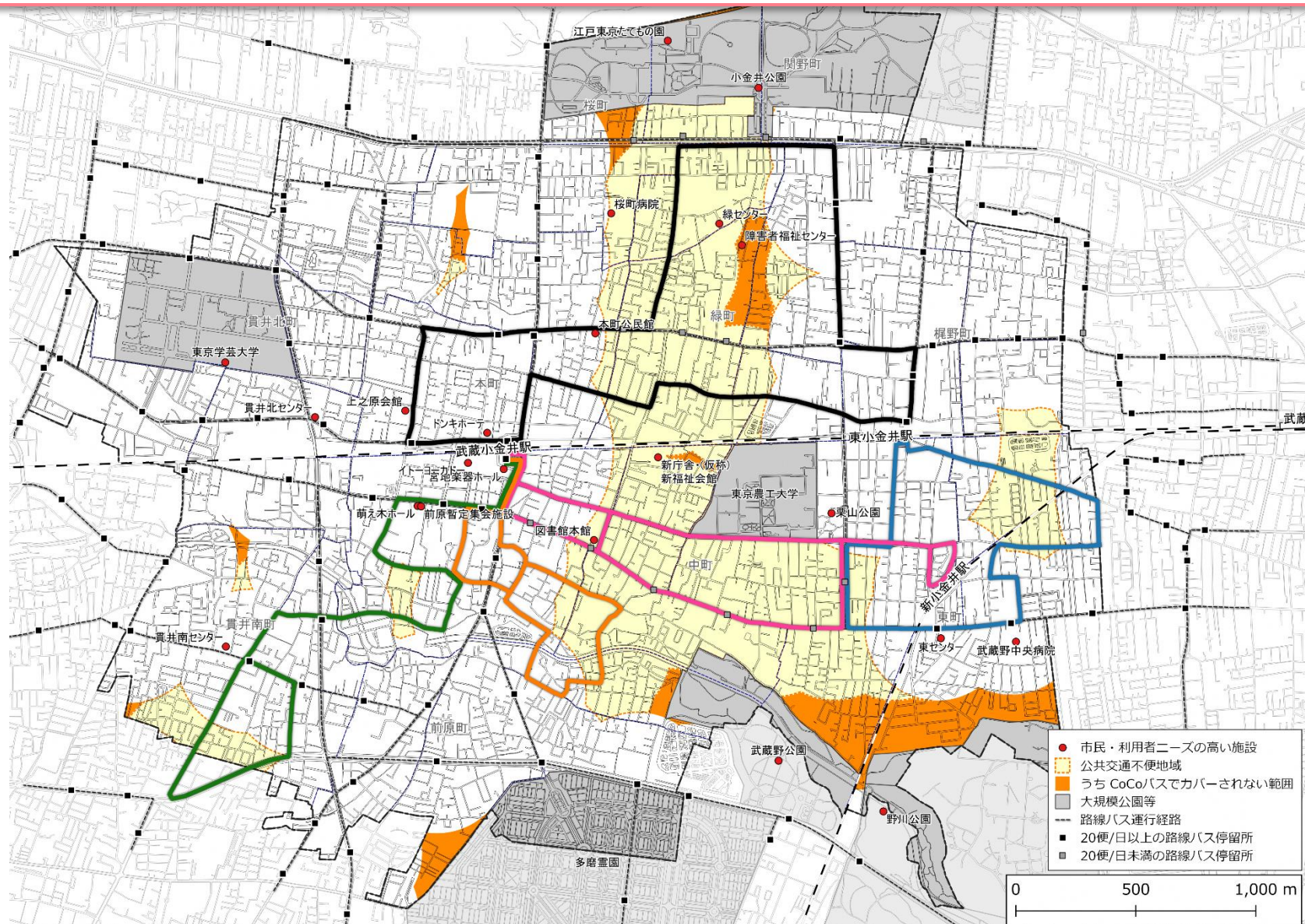
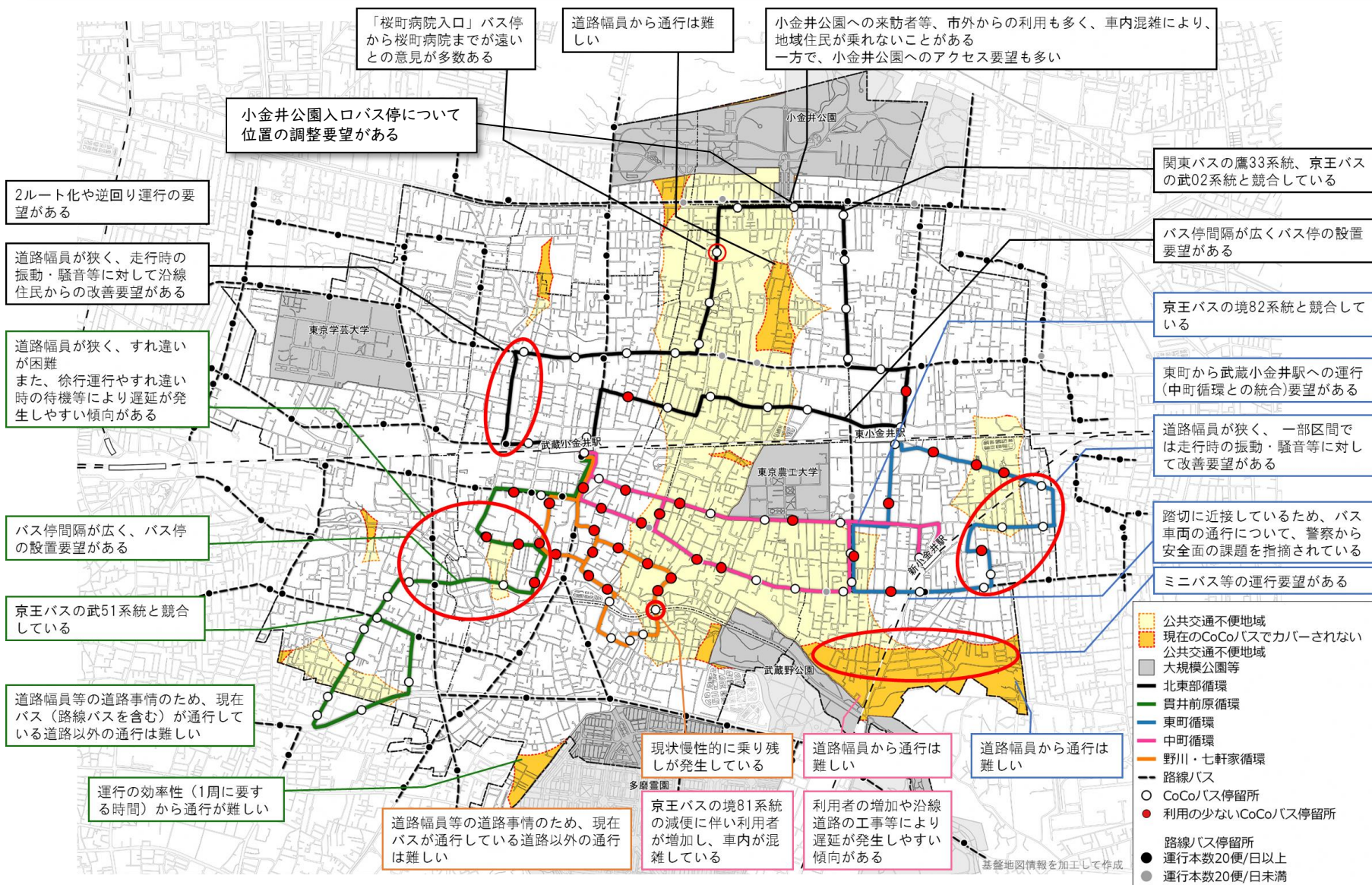


ルート検討について

➤ 鉄道駅から500m(新小金井駅は300m)以遠かつ、1日の運行本数が20便以上の路線バス停留所から300m以遠の地域を「公共交通不便地域」として定義しています。



➤ アンケート調査や地域懇談会での内容をもとに、現行路線の課題事項を整理しました。



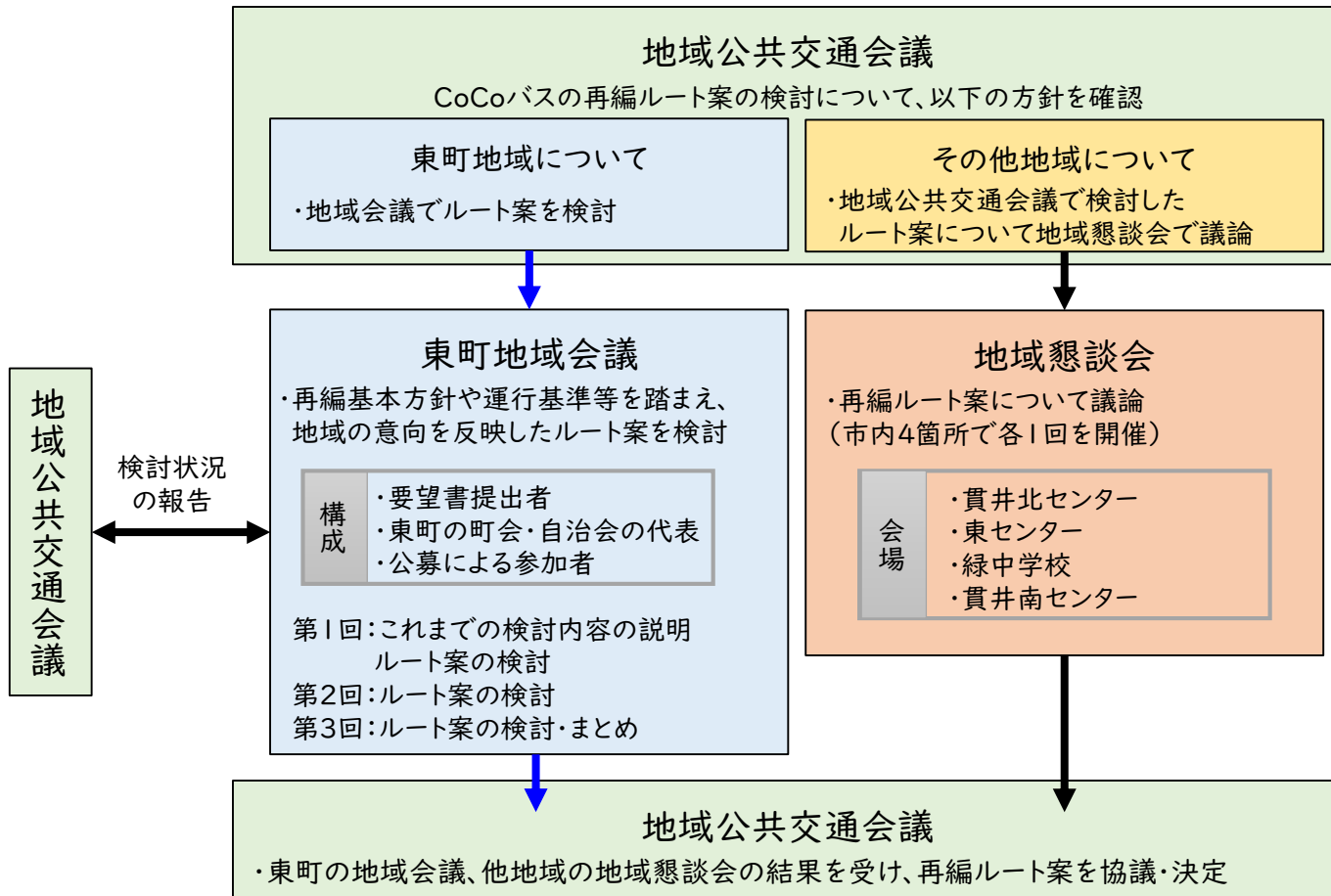
➤ 再編基本方針や再編運行基準、運行事業者の状況などを踏まえ、ルート検討の基本条件を設定しました。

項目		内容	備考等
1	使用する車両	基本方針の④「持続可能な運行形態・サービスの提供」に基づき、現有車両でサービスを提供することを基本とする。	車両の保有台数 ・ポンチョ7台(うち1台は予備車) ・ハイエース2台(うち1台は予備車)
2	通行する道路	ルートの検討対象とする道路は、一方通行、スクールゾーン等の交通規制を考慮した上で、原則として車両制限令に定めるコミュニティバスの運行に必要な最低限の幅員を満たす道路とする。	ポンチョ、ハイエースが通行可能な道路の幅員は再編運行基準に記載の通り
3	起終点の確保	運転士の休息・交代時間及び運行時間を調整するため、バスが待機可能な起終点を各路線に確保する。	現在市内で起終点として利用可能な箇所 ・武蔵小金井駅(北口・南口) ・東小金井駅(北口・南口) ・新小金井駅(駅北側)
4	路線延長	路線の長さは運行の安全性と運転士の休息等を考慮して実際に運行可能な距離に設定する。また、基本方針の③「日常生活に即した運行サービスの提供」に基づき、効率性の観点も踏まえる。	検討における目安(京王バスへのヒアリングの結果を元に設定) ・車両1台、1時間に2便の場合:4.5km程度 ・車両2台、1時間に3便の場合:6.0km程度
5	運行時間帯	再編運行基準に基づき、9時台～19時台の運行を最低限確保する。	現在の北東部循環は7時台～20時台、野川・七軒家循環は朝8時台～20時台
6	運行間隔	再編運行基準に基づき、1時間当たり2便(30分に1便)を最低限確保する。	現在の北東部循環は3便/時(平日朝は4便)、貫井前原循環も3便/時で運行
7	その他	再編運行基準を踏まえた上で、再編基本方針との整合性を図りながら、市内における高齢化の状況や土地の高低差を考慮する。	-

- CoCoバスの再編とは別に、新庁舎・(仮称)新福社会館へのアクセス手段として、武蔵小金井駅・東小金井駅を結ぶ新庁舎等シャトルバスの導入に向けて検討を進めています。



- 東町地域については、改善要望に対応しつつ、交通不便地域を解消するルート案の設定が難しいことから、要望書の提出者や、自治会の代表を交えた「地域会議」でルート案を協議することとなりました。
- 地域会議で協議されたルート案を受けて地域公共交通会議にて協議し、最終的に決定となります。



個別路線のルート検討について

- 貫井前原循環
- 野川・七軒家循環
- 北東部循環
- 南東部の路線（中町・東町循環）

➤ 各路線の運行範囲と再編の検討方針は以下の通りです。

■北東部循環(北東部の路線)

【運行対象地域】

市内北東部の交通不便地域を運行する路線として検討

【結節する鉄道駅】

武蔵小金井駅・東小金井駅

【車両台数】

ポンチョ2台

■南東部の路線

【運行対象地域】

市内南東部の交通不便地域を運行する路線として検討

【結節する鉄道駅】

中町地域:武蔵小金井駅
東町地域:東小金井駅

【車両台数】

ポンチョ2台

- ・中町地域・東町地域に分けてルートを検討
- ・東町地域から武蔵小金井駅へのアクセス性を考慮し、中町循環を新小金井駅付近に結節

【車両台数】

東町地域:ポンチョ1台
中町地域:ポンチョ1台

■貫井前原循環

【運行対象地域】

現在の貫井前原循環の路線を基に検討

【結節する鉄道駅】武蔵小金井駅

【車両台数】ポンチョ2台

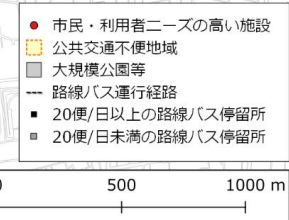
■野川・七軒家循環

【運行対象地域】

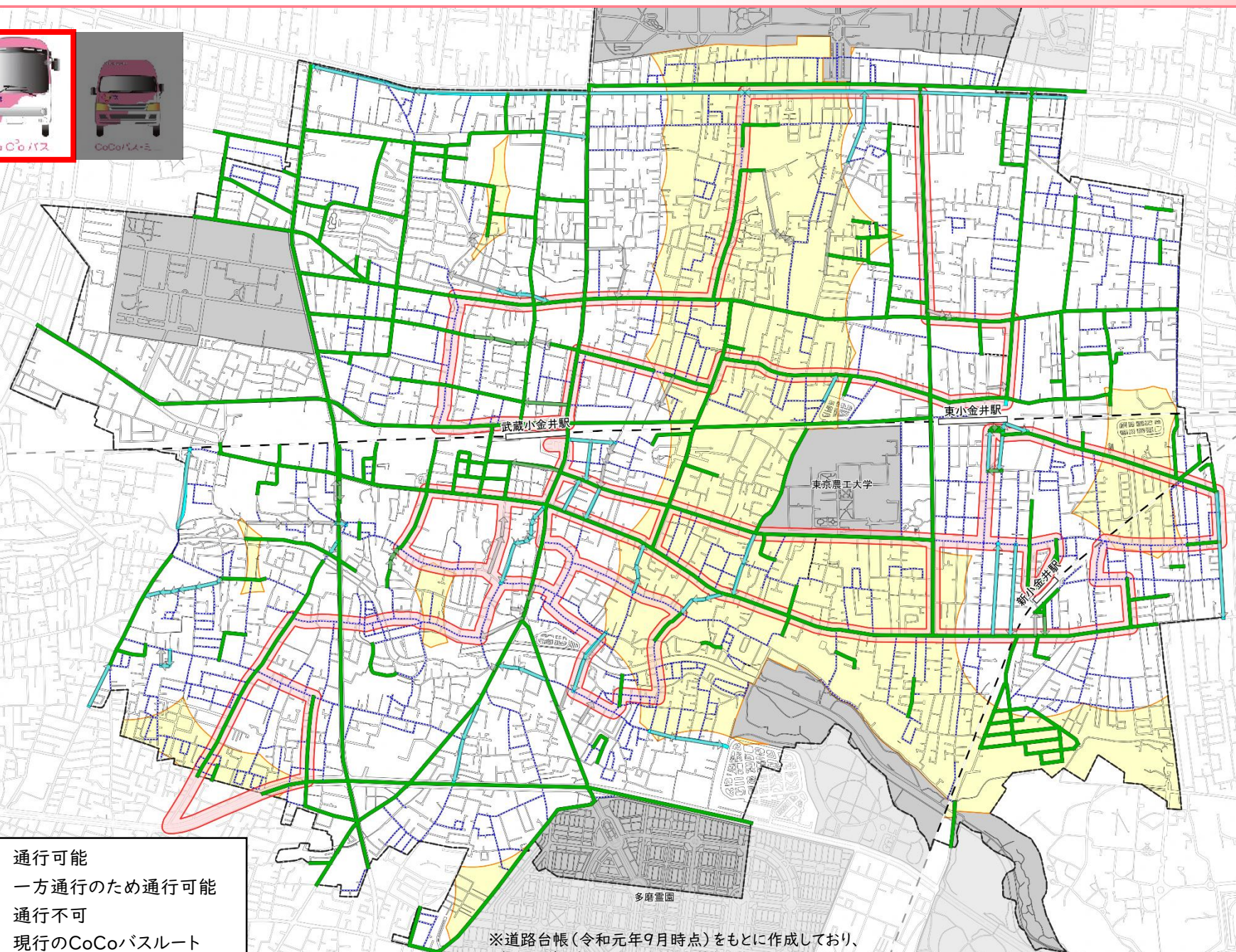
現在の野川・七軒家循環の路線を基に検討

【結節する鉄道駅】武蔵小金井駅

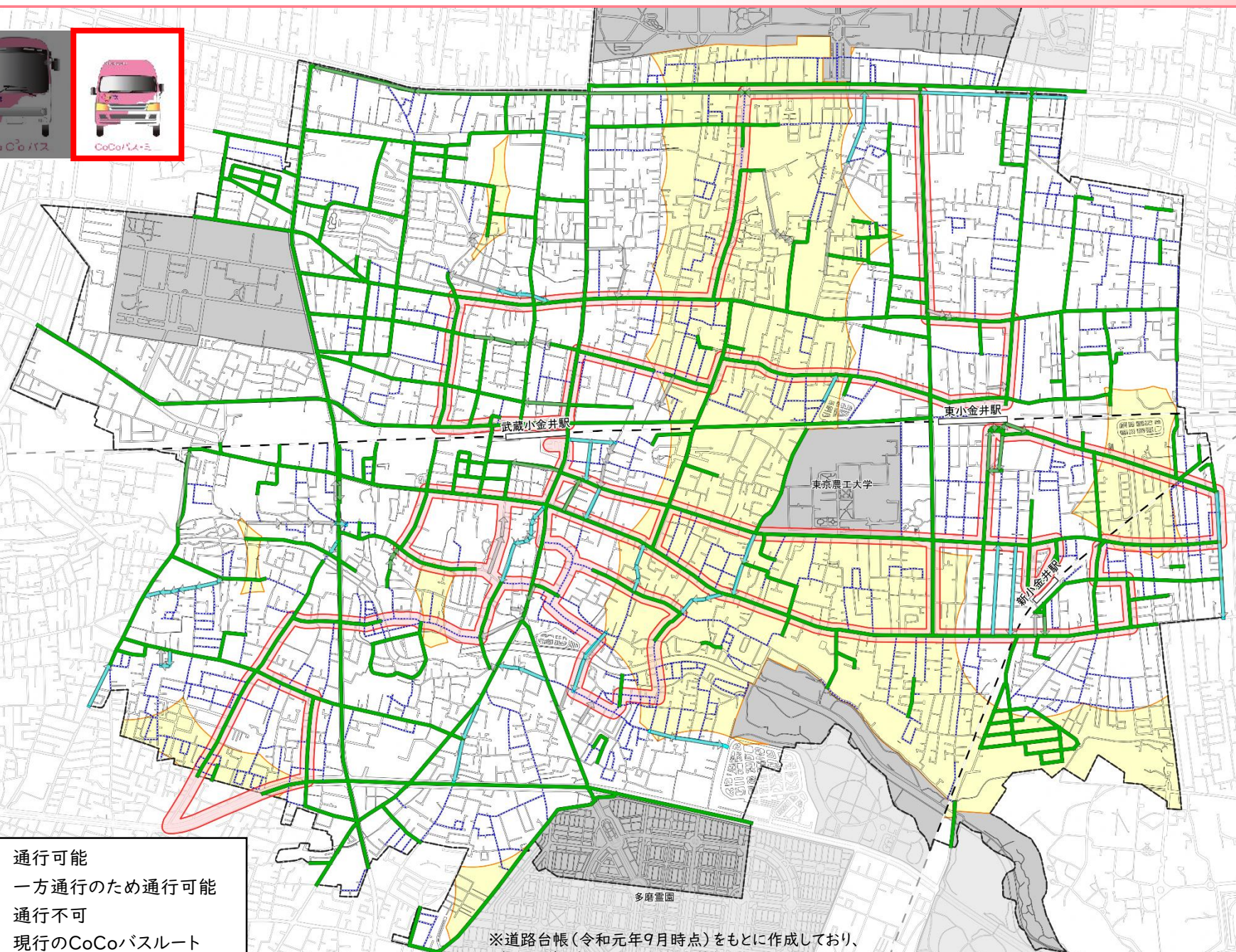
【車両台数】ハイエース1台



幅員上の通行可能箇所図 (ポンチョ版)



※道路台帳(令和元年9月時点)をもとに作成しており、
実際の道路幅員とは異なる可能性があります。



- 通行可能
- 一方通行のため通行可能
- 通行不可
- 現行のCoCoバスルート

※道路台帳(令和元年9月時点)をもとに作成しており、実際の道路幅員とは異なる可能性があります。